

教務だより

2018年7月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

インサイドアウトという考え方

茗溪塾塾長 宇野 雅春

受験が押し迫ってきて、親も子も先生もピリピリするところになると、必ずぶち当たる壁があります。中々成績が伸びない…。という場合のこと。親は、あんなに毎日勉強しているのに…きつと先生の指導が子どもに合わないのではないかと考えます。子供は、先生の説明が分かりにくいとか、眠くなるとか、先生がムカつくとか、だからできない…。また、当の先生はその生徒のことを、話を聞いていないし、宿題をやらないし、自覚がないから成績が伸びないと考えています。「他責」の応酬がここにはあります。

三者がそれぞれの不満をもって、悩むのですが、ここに費やすエネルギーはかなり膨大です。三者とも心の負担になっており、何かあきらめに近い感情を持っています。

悪いのは全部他の人という「他責」の考え方を「アウトサイドイン」といいます。これはただ消耗するばかりで何も変わらないだけでなく、心に大きく傷を受けたりもします。お互いがお互いを責め、そのことによってますます自分に自信が持てなくなり、ついには自分に「能力がない」という開きなおりに帰結します。そこを超えるための考え方が「インサイドアウト」です。7つの習慣の根本にある考え方です。

先日、小6の合同特訓で「優先順位」を勉強した時に、この「インサイドアウト」という考え方が出てきました。周りが望んでいることを感知して自分が変わるという考え方です。

受験において親の役割の一番大切なことは、何のために受験するのかを子供にわからせ子供からやる気を引き出すということです。多くの親は、言えば伝わると信じていますが、伝わらないことの方が多いはずで、むしろ子供のやる気をそぐ叱責や甘やかしになってしまいがちです。親の発言は、親の努力に裏打ちされた真剣なものでなければ子供には伝わらないと思います。周りの条件を変えていく強引なやり方のほとんどが成功しないのも、子供自身の変化が伴わないことによるものです。子供もまた、ただ反発する前に周りが期待していることを感じ取る必要があります。そしてそれに応えるために今何をすべきなのかを理解してから行動するという事です。それによって周りから認められる…周りは前より優しくなりますし反発する理由がなくなるばかりか、受験勉強そのものも楽しくなる…つまり合格への道は開かれることとなります。

先生の在り方も、努力の方向を決めてそれを実行していく主体として変化する必要があります。先生もまた、子供を成長変化させていく責任というものを自覚していく必要があるのです。悩みが生じたら、まず自分がどう変わるべきなのかを考えると、自分の「安心ゾーン」から「勇気ゾーン」へ一歩進むことで、「成長」という新しい次元を経験することになります。生徒と先生のこの「夏」の大きな課題です。

会社も学校も家庭も、誰かが強引に引きずり回すのではなくそれぞれが、内部から変化を遂げていく「インサイドアウト」の方法論が求められていると思います。